

第3節 映画『学校』について語り合った道徳学習

1 母さんがすごい輝いて見える

道徳教育や同和教育とは、主体的に学ぶという姿勢がないと決して機能していかない。その意味において道徳学習や人権・部落問題学習は、生徒一人一人の主体的な発言によって成り立っていく授業実践である。生徒一人一人の発言が、強烈な発問となって他の生徒の中に広がり、豊かな思いを引き出していく、そんな学級における人間的なつながりが土台にあってこそ、道徳学習や人権・部落問題学習は確かな授業実践となっていくのである。

そんな授業実践の中でいつまでも生徒一人一人の中に生き続けていく授業とは、生徒たちのその家族の存在を見つめ、ひたむきに家族への思いを語った場面である。その授業の一つとして、私は、『ふるさと』（丸岡忠雄）の詩に寄せて、「誇りうる生き方」を主題として取り組んだ学年全体による部落問題学習（全体学習）での発言がよみがえってくる。

その授業は、生徒一人一人の発言を通して「ふるさと」や「家族」についての考えを深めていく授業展開であった。「ふるさと」や「家族」に対する思いをひたむきに語っていく仲間の発言を噛みしめるように、ある生徒は自分の中からこみ上げてくる思いを堂々と、しかもほのぼのと語り出す。それは次のような発言である。

「みんなな、僕の父さんは自動車のペアリングをつくる会社で働きよるんやけど、その仕事場は油がいっぱいの所で、父さんは会社から帰ってくるといつも油のにおいがするんよ。

僕はその油のにおいが小さいときから嫌だったんやけど、この前、徳島市内に母さんと行ったとき、父さんの工場の前を偶然通ったんよ。そのときその油の臭いにおいがってきて、僕はすごく嫌だったんよ。

でもそのとき、母さんが『臭いなあ』とか言わんと、僕に『これ、父さんにおいやなあ』って言ってくれて、『父さん今頃、ここで頑張いよるんだろうなあ』って言ってくれたんよ。

そのとき僕には母さんがすごく輝いて見えて、母さんがすごく好きになったんよ。僕はそんな母さんを誇りに思うし、僕も差別意識がなくなったら母さんのように輝けるなんかえって思うんよ。」

この生徒の誠実な思いが学年全体に広がり、学年全体がこの発言に吸い込まれるように、この授業に集中する。この共感の中で生徒一人一人が集中していく姿こそ、道徳学習や人権・部落問題学習の「よろこび」であることを自覚する。そして、この発言に重ねて様々な思いが語られ、この授業は学年全体が人間として生きる誇りと「よろこび」を共有する授業となるのである。

2 「お前のような息子がおってよかった」って思ってくれる人間になりたい

生徒一人一人が主体的に自己をみつめ、語り、他者とつながり、その生き方を内省した授業として、いつまでも生徒一人一人の心の中に生き続けていく授業が、共感的つながりによって実践されていくが、そんな授業の一つとして映画『学校』の授業が思い出される。

今すでに『学校』という映画は、山田洋次監督によって第二弾、第三弾とつくられているが、第一弾の夜間中学校を舞台とした『学校』という映画を全校生徒で見たときの授業である。ちょうど

その映画が全国で封切られた年度末「3年生を送る会」という学校行事の中で鑑賞したが、その日は、2月の本当に寒い日だった。

その映画が終了したとき、何人かの生徒が私のところへ来て、「先生、今日の映画ほんまに感動した」と語り、「明日の道徳の時間、今日の映画についてみんなで授業がしたい」と言ってきた。私は驚いた。公立高校の出願という時期にさしかかって、受験受験という渦の中ではんろうされがちな生徒たちが、様々な現実にぶつかっている自分自身をこの映画を通してみつめ、今一度、道徳学習を通して仲間との絆を確かめようとする姿に、私は生徒たちの中には、私の想像を超える豊かな感性と、仲間を信頼し、共感と連帯の絆を支えとして、生きていこうとする姿勢があることを実感する。

そして、その翌日の道徳学習は、私に今も強烈なものを残している。その授業は、身体の大きな生徒が一番に立ち上がって、「今日、俺、一番に言わせてくれや」と語り出した。

「字を書けない人が一生懸命字を覚えていたところがあつただろう。あのイノさんという人と、ワイの父ちゃんがダブってくるんや。」

イノさん（猪田幸男）という役は、田中邦衛という役者が演じているが、そのイノさんは学校という世界と全く無縁の生活を送ってきたが、自分の人生をみつめ直したとき、様々な思いがわき起これり、50歳を越えて初めて夜間中学校という学校にたどり着く。イノさんは必死に字を覚えようとするが、カタカナがなかなか覚えられない。

そんな中でクラスメートが一言言ってくれた言葉。

「この人は競馬の新聞はしっかり読めるんだよ。」

この言葉に応えるように担任の黒井先生は「オグリキヤップ」という馬の名前を黒板に大きく書いた。

そのときであるイノさんの中に眠っていた何かが目覚めたのだろう。

「オグリキヤップ」と読み上げ、「俺は、オグリには一言ある」と言って、悲運の名馬オグリキヤップについて、イノさんは、有馬記念でオグリキヤップが中山競馬場を駆け抜け、勝利した場面を激しく感動を持って語るのである。

そこからイノさんはカタカナを獲得し、イノさんの学びが確かなものになっていくが、そのときすでに、イノさんの身体はボロボロだった。後わずかで卒業というところで、イノさんの生命は終わっていくのである。

その生徒は、そんなイノさんと必死に働いて生きている父親とを重ねて、堂々と自分の心の底にわき起こってきた感動を語り切る。

「ワイの父さんもあんな感じだったんかなあと思えてたまらん気持ちになったんよ。ワイの父さんもあんなふうに苦労して勉強してきたと思うんよ。」

「ワイな、小学校のとき、父さんに算数の宿題を教えてって頼んだことがあったんよ。あのときの父さん、ほんまつらかったと思うんよ。」

父さんが『本、見てみい。本に書いてあるだろう』っていうたけど、ワイは『父ちゃん、わからん、宿題していかなんなら、先生に怒られる』って言うたら、父さんが『ほないっしょにやらんか』

って言うてくれたので、本を見ながらいっしょに宿題やったんよ。

時間がかったけど、苦労したけど、宿題ちゃんとできて、ワイな、ワイの父ちゃん勉強あかんと思っていたけど、まあまあ勉強できたんやって思ってうれしかったんよ。

でもな、次の日学校へその宿題持つていって答え合わせしたら、みんなまちごうとったんよ。」

本来その生徒にとって、恥ずかしいことであった父親とのやりとりを表情豊かに生き生きと語り、その発言をクラスの仲間も笑顔で受け止めているクラスの雰囲気に、同和教育が築き上げてきたつながりのすばらしさを実感する。

そして何より、クラス全員が思いっきり、この授業を楽しんでいるように私は思えた。その生徒はきっぱりと次のように発言を締めくくる。

「そのときは、やっぱり父ちゃん、勉強あかんかったんかって思って、なんやつらかたけど、昨日あの映画見ながらそのときのこと思い出して、わからんのに一生懸命考えて教えてくれたことを思ったら、胸が熱くなってたまらん気持ちになったんよ。

ワイな、徳島商業に行こうと思っているんやけど、徳島商業へ行ったら思いっきり勉強して、父ちゃんに『お前のような息子がおってよかった』って思ってくれる人間になりたいと思うんよ。」

この言葉がクラス全体に響き渡り、次から次へと仲間の思いがつながっていく。一人一人の本気の発言が、一人一人の本気の思いを引き出し、一人一人の人間を生き生きと輝かせていく。これが道徳教育や同和教育のあり方であり、道徳学習や人権・部落問題学習の「よろこび」だと思う。

映画『学校』について一人一人の思いを語り合う中で、自己をみつめ、語り、他者とつながるよろこびを共有した道徳学習の記録を掲載する。



1993年度板野中学校 3年A組

【授業記録】映画『学校』について思いを語り合った授業

主　題 「ほんとうの幸福って何だろうか」

資　料 映画『学校』(山田洋次・監督)

1994年2月5日(土) 第4校時

徳島県 板野中学校 3年B組

授業者 森 口 健 司

1 映画を見て、父さんことを思い出したら、涙が出そうになった

T1：昨日、全校で観た映画『学校』、みんなはどんな思いになっただろうか。この時間は、みんなの感想を語り合う時間にしたいと思います。このまえ、劇場で見たときにその劇場で購入したパンフレットです。最初のところを紹介します。

－『学校』について－

教えることも学ぶことも共に大きなよろこびがあるはずだ。

『学校』が、教師にとっても生徒にとっても、楽しいところであって何故いけないのだろう。

今から15年前、山田洋次監督は自分のイメージするそんな『学校』を夜間中学校に見い出しました。そしてこのテーマを映像化しようと決意したのです。

夜間中学は、公立のものが全国に35校、その他に有志のボランティアによって運営される自主夜間中学が数校存在します。

世の中のひずみが象徴的に現れる教育問題。夜間中学に通う生徒は、そんなゆとりのない教育の場から様々な意味ではみだしてしまった人たち。

山田監督は実に15年もの長い間、夜間中学で学ぶ生徒たち、教師たちを見つめ続け、そして今ようやく映画『学校』の撮影が始まったのです。この作品に対する監督の思いの深さがうかがえます。

舞台は東京の下町のある夜間中学校。そこには様々な境遇、様々な年齢の生徒が学びそこで教えることに情熱をそそぐ先生がいる。『学校』はそんな生徒と先生との心と心の交流を描いていく。

これまで、日本の現状や人間愛といったテーマを、映像作家・山田洋次は一貫して訴え続け、多くの人々の共感を得てきました。その集大成ともいべきこの作品では、さらに「人間にとて本当の幸福とは何か」という非常に大きな、そして深い問い合わせを投げかけます。

ゆとりのない社会、そしてそこで生きる人が忘れかけてしまった心を取り戻すために……。

T2：昨日、観ていろんなことを感じた、いろんな思いをみんなが生活記録に綴ってくれていました。みんなのいろいろと思う部分を語っていってほしいと思います。

C1：みんなな、字が書けん人が一生懸命字を覚えよるところがあつたでえ……。あのイノさんという人の姿とわいの父さんがだぶってくるんや。うちの父さんもあんな感じだったんかなあと思えて、わいたまらんかつたんよ。

小学校のときなあ、父さんになあ、算数の宿題を教えてくれって、頼んだことがあつたんよ。そのときな、父さんな、困った顔したんよ。わい、いつちよもわからんけんって言うたら、いつしょにやらんかって言うてくれて、いつしょに宿題したんよ。時間かかったんよ。ほんま苦労したけど、その宿題できたんよ。そのときな、わいの父さん、勉強、まあまあいけたんやなあって思って、ごつついられしかつたんよ。

でもな、次の日、その宿題学校へ持つて、みんなで答え合わせしたんよ。そしたらな、みんな間違ごうとつたんよ…。やっぱり父さん勉強あかんかったんかって思つて、なんやつらかつたんよ…。でもな、昨日あの映画を見て、あのときの父さんのことを思い出したら、涙が出そうになつたよ。

わからんのに一生懸命、わいのことを使って教えてくれた気持ちがものすごくわかるんよ。わいなあ、徳島商業へ行きたいんよ。どんなことがあっても合格して、徳島商業で思いっきり頑張つて、いつか父さんに、

お前のような息子がおってよかったって、思ってくれるような人間になりたいんよ。

T3：みんなS君の思いをどう聞いた。みんなの思いをつなげていこう。

2 先生になったら生徒たちに幸福を渡していくことのできる先生になりたい

C2：僕は昨日の映画観て、最後に「教育学部に進学して、私、夜間学校の先生になる」と言った言葉が心に残っています。多分あの人は、あの先生と出会って、あの先生からもらった幸福を夜間中学校の教師になって、これから出会う人に伝えていこうとしているんだと思いました。僕は幸福を与えていくのが学校だと思います。だから、僕は将来学校の先生になりたいと思っているので、僕も先生になったら本当に生徒たちに幸福を渡していくことのできる先生になりたいと思います。

T4：二人の思いにつなげてください。みんなは昨日の映画、どう思った。どう聞いた。どう観た。どう感じた。みんなには感じる力があります。みんなの思いを語り合うことを通して、本当につながり合いたいと思います。

C3：昨日、映画の終わりの方で「幸福」というのが何だろうという場面が出てきたけど、お金が幸福とか、いろんな形で幸福について話し合っていたけど、僕は幸福というのは、その人それそれだと思います。僕にとって幸福というのは思いきりサッカーができる事だと思っています。僕は幸福というのは、今一番やりたいことができるときとか、そのことをやろうとするときがその人の幸福だと思いました。

T5：みんなの思い、みんなの感動しっかりと語っていきましょう。そのことが自分自身を解放していくことにつながっていく。みんなの思い語り合いましょう。

3 自分の価値観でしか物事を捉えられないことが、人間としてとても恥ずかしいこと

C4：昨日の映画を観て思ったことですが、私たちがあたりまえだと思っていたことが、あの映画の中ではあたりまえじゃなくて、私たちは文字とか計算ができた、それがあたりまえになつるけど、そういう考え方が間違いということが、昨日分かってきた気がします。なんか自分の価値観でしか物事を捉えられないことが、人間としてとても恥ずかしいことだと思つたりします。あの映画を通してとても大切なものを教えてもらつたような気がします。

T6：さっきS君が自分の生活と重ね合わせて語ってくれましたね。みんな自身と生活とを重ねて、いろいろ思ったこと、感動したこと、そのことを出し合いましょう。

C5：最後に夜間中学の認められている数が35校で、ボランティアで実施しているのが数校と書いてあって、それ見たときそんなに少ないのかなあと思ったんです。映画の中で勉強している人の姿を見たとき、もっともっとこんな学校を必要としている人がいると思うから、もっともっと数を増やすべきだと思いました。

C6：イノさんというおじさんが、妹とかお父さんとかお母さんとかが死んでしまって、すごく寂しかったかもわからんけど、夜間中学校のみんながいたから生きていく支えになったというか、やっぱり人間というのは、一人では生きられないものだと思いました。

C7：私は正直なことを言つたら、夜間中学というイメージは、いいイメージではなかったんです。そんなイメージを持っていたから、その意識が差別意識となって、親戚の人に私がI高校に進学すると言つたとき、「I高校や行かれん」と言われても何も言い返すことができなかつたんだと思いました。

C8：私も、映画を観ていて思ったことだけど、世間体とかを気にして私は本当に大切なことを見ていないと思いました。夜間中学校の人たちは、一人一人が自分自身の生き方を持っていていいなあと思いました。私は今高校のことですごく悩んでいて、徳島商業に行きたいのに不安で不安でうじうじしています。映画を見ても、今の私を見ても、今を一生懸命に生きるということが大事だと思いました。やっぱり努力せなあかんと思います。

4 学校の先生になって、生徒が輝くような授業をしたい

C9：映画を観て思ったことなんだけど、人にはそれぞれつらいことがあるんだと思いました。私は特にイノさんという人が黒井先生に、「生きる次元が違うんだよ」と怒っているのを聞いて、心がグッときました。黒井先生は仕事を休んでもお金が入ってくるけど、イノさんは仕事を休むとお金が入ってこないということとかで、イノさんは「次元が違う」と言つたんだと思います。でもそんなことで人の価値は決まらないと思います。昨日の参観授業のとき、Hさんが「一生懸命に生きている人は輝いている」と言つていました。イノさんも黒井先生も一生懸命生きているんだから、すごく輝いていると思います。イノさんが自分を卑屈に思つているのは違うと思いました。それと最後の方に「幸福とは何か」ということを言つていて、「それをさがすために勉強しているんだ」と答えているのを聞いてすごいなあと思いました。私の親や親戚の人は、学校は勉強のためだけに行って、良いところにお嫁に行くためだと思っています。もし今度そんなことを言つたら言い返したいと思いました。そして、学校で人を決めるようなことはやめてほしいと思いました。でも私も、夜間中学というと、悪い見方をしていました。それがこの映画を観て見方が変わったと思います。私も自分の行きたい高校に行って、学校の先生になりたいです。そして、生徒が輝くような授業をしたいなあと思いました。

C10：私の一番心に残っているところは、最後のところでエリ子という女の子が、高校に行って大学の教育学部に行って夜間中学の先生になると言つたところです。学校で学ぶということは、そんな将来への目標を持つことだと思います。

5 自分に自信がもてるようになって、父さんがたまらなく好きになった

C11：僕はみんなと部落問題の学習をしてきたことによって、僕自身の生き方は変わってきました。今まで父さんのことなんかもだれにも話すことはないと思っていました。でも、みんなの思いを聞いて、みんなと部落問題の学習をしていく中から、自分に自信がもてるようになったし、父さんがたまらなく好きになりました。学校で勉強するということは、そんな生き方をつかんでいくことだと思います。

T7：私もそうなんです。私も先生になったばかりの頃は、私の父親のことは、だれにも話しませんでした。私の生まれた町には、私と同じ苗字の先生が二人おいでて、ちょうど私の父親と同じぐらいの年齢なんです。それでその二人の先生の息子さんとよく間違われるんです。今もそう思い込んでいる人がいます。よく「お父さん、お元気ですか。この前お世話になりました」とか、「お父さんの話、聞きました」ということを言われるんです。多分間違って話をしているんだなあと思っても、5年ぐらい前までははっきりと自分の父親のことを言いませんでした。でも板野中学校にきてみんなと全体学習に取り組んでいく中で、私は父親に対する思いが大きく変わりました。今は「父はこういうふうにして頑張って、一生懸命生きています。頑張ってくれます」ということが、胸張って語つていけるようになりました。私は同和教育の営みの中で父親が好きになってきたんです。あの映画にしてもそうなんです。今、みんなが取り組んでいる部落問題学習というのは価値観を変えていく営みです。みんなが進学する学校、たとえばI高校をあまりいいイメージもってなかっただ子が、自分自身の生き方として学校へ行くことの意味を考えていくことによって、その学校にいくことを誇りにし、本当に頑張つていける自分になれる。そういうふうに人間は変わるんです。教育というのはやっぱり変わることだと思うんです。

C12：僕が変わった理由というのははっきりとはわからんけど、僕は父さんに感謝しています。小学校のときに柔道を始めるとき、父さんに結構反対されてって、柔道をさせてくれないような感じだったけど、父さんは僕の気持ちをわかってくれて精一杯応援してくれるようになったんです。だから父さんにはすごく感謝しています。それと父さんは、結構おもしろいところがあって、しょうもないギャグを言うこともあって、何かわからんけど好きなんです。

T8：S君の思いにみんなはどう返す。

C13：S君は親を信頼できるというのがすごいすばらしいことだと思います。やっぱり親を嫌ってばかりだったら、今のS君の意見はないと思うし、やっぱり僕も親に対する気持ちを大切にしたいと思います。

C14：私もそういう部分が、全体学習からどんどん増えると思うし、お父さんのこととか人間として大切なことを学んでいくことが、学校へ来ることの意味だと思います。

C15：僕は学校というのは、どんな環境でも本来すばらしいところだと思います。中学で学んでいる人も、高校で学んでいる人も、夜間中学校で学んでいる人も、結局人間について学んでいるんだと思います。映画の中で「幸福」とは何かというのがあったけど、学校での「幸福」とは、何気なく授業をしていても、一人一人が楽しく仲間と話したりしていれば、それが「幸福」だと言えると思います。でも学校が嫌いな人がいるけど、いつか好きになればそれで最高の「幸福」になってくるんだと思います。

T9：「幸福」というのは、その瞬間瞬間に一生懸命生きているということ、頑張っているということ、また自分自身が大好きになること……。いろんな捉え方があるでしょう。仲間の思いに重ねて我々自身の本当の思いを語っていこう。そして、我々自身を変えていこう。あの映画に重ねて、あの映画の中に登場した一人一人の思いに重ねて、みんなの思いを語っていこう。それが自分を表現できるよろこびであり、そこから本当の幸福が生まれていくと思う。中学3年が終わりに近づいたこの時期、あの感動に震えた映画を観た翌日のこの時間をすごく大事にしたい。

C16：僕のお父さんは、昔はすごく恐かったけど、今はすごく父さんに対して尊敬できることがあります。それはあの映画に出てきた人たちのように一生懸命生きていることです。

C17：私も夜間中学校って聞いたとき、あまりいいイメージを持ってなかったけど、私は、今学校へきているのは、夜間中学校で学んでいる人のような思いで学校へきていると思うけど、夜間中学校へ行っている人は、自分たちが本当に学校へ行きたいって思って、学校で勉強しているから、自分が進んで勉強して自分で漢字とか計算の仕方とか覚えて、その一つ一つがその人たちのよろこびになっていて、人それぞれに生活は違うけど、人それぞれに幸福があって、その人自身が幸福を感じていくんだと思います。

C18：昨日の映画を観て、学歴のこととかの話があったけど、私自身、親から全然勉強しないと言われるんだけど、私は別に勉強できるということも大事かもしれないけど、勉強というのはできないことがあっても、それそれにやる気を持って頑張れば、特別難しい研究とかは別にして、必ずできるようになるものだと思います。だけど、その人のもっている本当のすばらしさというのは、その人自身にしか表現することができないから、みんなが自分に自信を持って自分の個性を精一杯伸ばしていくことがとても大事だと思います。

6 勉強というのは、本来楽しいものであって、学歴にとらわれた人生というのは楽しくない

C19：私も昨日の映画を観て改めて考えさせられるものがありました。小さい頃からなんらかの原因で学校へ行くことのできなかった人たちにとって夜間中学校というのが、どれだけ心の支えになっていたか、数え切れない部分がたくさんあると思います。私自身、夜間中学校や定時制高校へ行くのはみっともないことだという意識がどこかにありました。だけどこの映画を観て自分の中に今まで植え付けられてきた考え方からやっと解放されました。今の世の中は学歴がついて廻る世の中だけ、私はそんな社会そのものがおかしいと思います。勉強ができるということは、いろんな場面においてもいろんな意味においてもいいことかもしれません。だけど今の社会は学歴のあるものだけによって築かれてきた社会ではないと思います。勉強というのはやる気さえ起これば必ずできるものだと思います。また勉強というのは、本来楽しいものであって、学歴にとらわれた人生というのは楽しくないし、自分というものがあってよかったなんて思えないと思います。

C20：私もS君のお父さんの話を聞いて、私もお父さんをいろいろ考えてみました。私のお父さんが生きてきた中にもいろんなことがあったと思います。私のお父さんは、いつもは何か機嫌が悪いんやけんど、

今朝は「おちびさん、早よう起きなよ」って言って、「お父さん、なに言よん」って言ったんだけど、今朝みたいにときどきおもしろいときがあります。まあ、お父さんがいるから私もやっぱり幸福に暮らしていると思うし、家族がいるから自分も幸福でおれるってことを自覚して生活していけば、本当の幸福になれると思います。

C21：私は映画を観てたくさんのこと学べたと思います。あの映画が訴えていることは、今一番求められていることだと思います。私は夜間中学校というものを通して自分の状態を見つめ直すことができました。映画の中で何回も何回もしくじりながら、一枚の葉書を書き上げたときの感動はすごいものがありました。苦労して字を覚えたり葉書を書いたりすることができたのは、お互いの存在を大切にし心の底からよろこび合える仲間ができたからだと思います。

7 板野中学校でやっている全体学習とつながるものがある

C22：私はあの映画を観て、学校というのはただ知識を深めるためにいくというのじゃないと思いました。学校はあの映画が訴えているようにもっと楽しいところだと思ったし、生きるよろこびをつかんでいくところだと思います。だからエリ子は大学へ行って、またこの夜間中学校に戻ってくると言ったんだと思います。楽しくなかったらそんなことは思わないと思います。それと幸福というのは、お金なんていう使えばなくなるものではなくて、ああいう生き方をしたいとか、生きていてよかったとか、そんなものだという言葉が心に残っています。あの夜間中学校は、勉強だけでなくどうして学校に行きたいのか、その気持ちを大切にして向かい合った授業をしています。私たち板野中学校でやっている全体学習とつながるものがあると思いました。

C23：自分は何の苦労もなく、字が書いて好きなことをしてきました。学校にしてもあたりまえのように行けて、勉強も教えてくれる。でも世の中には行きたくても学校に行けない人や、ものすごく厳しい状況で生きている人がいます。でも人間というのは一生懸命生きることが、その人の心を豊かにしていくのだと映画を観ていて思いました。

T10：つなげてください。

8 人は勉強というか、お互いに話すことでわかり合えるし、仲間になれる

C24：私もあの映画を観ていろいろなことを思ったけど、一番心に残ったことは私たちがあたり前だと思っていたことがあたり前でなかったことです。文字にしても、今の私には書いてあたり前だと思っていたけど、その私の考え方は間違っていることに気づきました。私は習い事に行きたいと言ったら行かせてくれたり、私の好きなようにさせてもらいます。でも映画の中で、かなり年配の人たちが一生懸命に苦労しながら頑張っている姿を見て、私は今まで何をしてきたんだろうって思いました。苦しんだり悩んだりしながらも一生懸命に頑張っている姿は、本当に美しいものだと思います。映画の最後に幸福って何だろうと話し合っていく場面があったけど、あのひたむきに頑張る姿が本当の幸福を築いていくんだと思いました。それと、映画の中で黒井先生が言っていたけど、学校というのは勉強したい人が行くところだと思いました。そして人は勉強というか、お互いに話すことでわかり合えるし、仲間になれるんだと思います。

C25：昨日の映画を観て、夜間学校を行っていた人たちの頑張る姿に感動しました。一生懸命になれることが本当にすばらしいことだと思います。僕も勉強やいろんなことに一生懸命になれるようにしたいです。

C26：私も一応、高校は行きたいと思っているけど、それはみんなが行くからで、別に自分から勉強したいというのはなかったけど、夜間中学校にいっている人たちは、別に勉強しなくてもいいというか、だれからも学校へ行くことや勉強することを強制される立場ではなかったと思います。それなのに一生懸命です。どうしてあんなに頑張れるのかと思いました。勉強というのは義務でするのでなくして、自分から学んでいこうとすることがとても大切だと思ったし、自分のいいかげんさが見えて、今の私のままでは本当の幸福をつか

んでいく勉強にはなっていかないと思いました。あの映画は、私が見失っているとても大切なものを示してくれたと思います。

C27：昨日の映画を観て、夜間中学校の人は勉強とかを一生懸命していて、一生懸命にすることは、その人を幸福にしていくんだと思いました。僕も一生懸命しようと思いました。

C28：夜間中学校に通っている人は、本当に勉強したいと思っている人が集まって頑張っている学校だから、本当に楽しそうに見えたんだと思います。私は高校になるとみんなと離れて一人になってしまいます。でも自分が選んだ道だから後悔しないし、また新しい友だちや先生と頑張りたいと思っています。一人で板野中学校という大きなものを背負うようになるけど、板野中学校で過ごした3年間を大切にいろんな経験を生かせるように頑張りたいです。

9 幸福というのは形ではない、幸福というのは切り拓いていくもの

C29：昨日の映画を観るまで夜間中学校があるっていうのは知らなかつたので驚いたけど、映画の中での人はすごく楽しそうでした。登校拒否の人や字が習いたくて通い出した人や、立ち直りたくて夜間中学校にきている人たちはとても伸び伸び生きているように思いました。最後にイノさんが亡くなつて、みんなで幸福について話し合つたとき、最初はお金があることが幸福とかいう意見もあつたけど、みどりが今までのことについて話したときに、黒井先生に会つて幸福になれるかもしれないと思ったと言つたけど、私も幸福というのは形ではないと思います。幸福というのは切り拓いていくものだと思います。私も頑張つて勉強して自分の幸福を切り拓いていきたいと思います。

C30：僕もS君と同じようにお母さんがいないけど、今お父さんを僕は信頼しています。小学校の頃はいつもお父さんの言つことは絶対で、お父さんの励ましを支えとしていろんなことを頑張つてきたけど、中学校になつて自分自身が少し駄目になつたところもあって、お父さんの思いに応えることができなくなつたように思います。お父さんは家のことと、仕事とで本当に大変だと思います。僕は頑張つて勉強していつかお父さんを支えていくことのできる人間になりたいって、S君の発言を聞きながら思ひました。そのためにもちゃんと高校に行くことができるよう今の毎日の勉強を頑張ります。

C31：昨日の映画、(体育館の中が) すごく寒くてたまらなかつたけど、中学3年の最後にあんな映画をみんなで観ることができて本当によかったです。学校に来るということの中で一番大切なのは、学校で何かを学ぼうとする気持ちであり、頑張ろうとすることだと思います。僕はこれから高校へ行くけど、なんとなく学校へ行くのではなくて、学校に行くことの意味をもっともっと考えていくと思います。

T11：昨日はM君にとって記念すべき日、合格発表の日にあの映画を観たことはとても大きいと思うよ。あの映画の感動はこれから高校で頑張つていく大きなエネルギーになっていく。M君の思いにつなげてください。

10 一生懸命に字を習っている40才の方、ディスコとかで踊っている20才よりすごいと思う

C32：昨日の映画観て、幸福って何だろうとか、幸福を見つけるために勉強するっていうことを言つていたのを聞いて、私はすっごい楽な気持ちになつて、これでまた頑張ろうっていう気持ちになり、やる気ができました。みんな、50才や40才の人がやつてはいるとかいっていたけど、私は今まで40才になつたらおばさんじやとか思つてはいたけど、やっぱり年とか関係なくって、一生懸命に字を習つている40才の方が、ディスコとかで踊つている20才よりすごいと思うし、やっぱり私のお母さんも、今が一番いいとか、仕事が楽しいとか言つてるので、私もそんな大人になつていくことができるよう頑張ろうと思いました。

T12：幸福っていうことについて、その瞬間瞬間を一生懸命生きることが幸福でないんだろうかっていうことを生活ノートに書いてくれた人がいました。あの映画の中の場面や今友だちが語つてくれた思いに重ねて、あの映画から伝わつてきた感動について語り合いたいと思います。

C33：昨日の映画観て、字が書けることがその人の人生をとても豊かなものにしていくんだと思いました。

11 幸福というのは「ありがとう」と言えること

C34：僕はあの映画を観て学校のすばらしさがわかったように思う。映画の中でみんなが求め合った幸福についてだけど、幸福というのは「ありがとう」と言えることだと思います。先生に感謝し、仲間に感謝し、これから出会う人に感謝できる生き方をつかんでいくこと。それが幸福を求めることだと思います。学校というと、どうしても勉強ばかりという感じがしていたけど、学校には仲間とのふれあいがあって人間的な心を育てくれる場だと思いました。

T13：中学3年という一番多感な、一番感動する、一番涙が出る時代、うれしいにつけ悲しいにつけ涙がこぼれそうになる一番多感なときに、あの映画が封切られてあの映画を仲間と共に観たということ、そして、その映画について思いを語り合ったということ。そこにどんな意味があるのか。そのことを語り合っていきましょう。

C35：あの映画を観ていて、僕はもう少し泣きそうになる場面がいっぱいありました。生徒一人一人の夜間中学校にたどり着くまでの道のりが、僕には想像がつかないくらいつらいものがあったことが印象に残りました。最後の幸福とは何かというところで僕も考えました。もしお金だとすると、もちろんある方がいいけど虚しいような気もする。でもじやあ何だと言われたら言葉が詰まる。結局、僕の中にある幸福というのは、自分の夢だと思いました。それと最後の最後に現在夜間中学校は全国に35校、ボランティアで実施しているのが10数校しかないというのを見て驚きました。大阪あたりだけでも確か7校ぐらいあると聞いたような気がするので、全国には100校ぐらいあると思っていたので、全部あわせて約50校しかないという現実に少しショックを受けました。

12 学校で学ぶことの意味の中には、そんな差別意識を洗っていくことが根本にある

C36：あの映画を初めて知ったのは、前に雑誌を読んでいたときにその記事を見つけたときで、ずっと観たいと思っていたので、全校で観ると聞いたときはすごくうれしかったです。あらすじは知っていたけど、どの場面にも胸がいっぱいになりました。人間はいろんな苦労を背負って、精一杯に生きているんだと思いました。中には中国の人もいて、日本という社会の中で生きていくことの苦しさが伝わってきました。日本人がフランスやイギリスの人を見る目と、中国や東南アジアの人を見る目、私たちの意識の中には差別意識が入り込んでいることに気づきます。最後の幸福について語り合った場面があるけど、学校で学ぶことの意味の中には、そんな差別意識を洗っていくことが根本にあると思います。あの夜間中学で学んでいる人たちは、お互いの苦しみや悲しみを分かち合っているから、一つ一つのことに一生懸命になることができて、きらきら輝いているんだと思いました。

C37：この映画はCMで流れたときから、ずっと観たいと思っていました。ずっと思っていた通り感動的な映画でした。本当の生き方って何だろうと思ったし、最後の方に幸福ってどんな意味だろうと言っていたけど、私はずっと考えていました。私はお金じゃなくて生きるよろこびだと思います。毎日本当に生きていてよかったです、生まれてきてよかったと思えることが本当の幸福だと思います。50歳を越えた人たちが一生懸命に字を覚えているのを見て、何事も一生懸命にすることが幸福を呼ぶんだと思いました。

13 頑張って徳島商業へ行って幸福になります

C38：私もいろいろな人が夜間中学校に通っていて、勉強したいという気持ちは同じなんだと思いました。私は世間体とかを気にしてしまうけど、夜間中学校はそういうんじやなくて一人一人が自分の生き方を持っていて、いいなあと思いました。私は今高校のことですごく悩んでいて、徳島商業に行きたいんだけど、努力できていないのですごく不安になってやっぱり〇〇高校にしようかなとか考えています。本当に行きたいのは徳島商業なのに、点のことを考えたら不安になってしまいます。でも頑張って徳島商業へ行って幸福にな

ります。

C39 : Tさんが高校のことで悩んでいて、昨日から高校を変えるとかいって、すごく悩んでいると聞いていたけど、私はTさんには本当に行きたい学校があるんだから、その目標に向かって全力で頑張って絶対行きたい学校に進んでほしいと思っています。

C40 : さっきTさんが徳島商業に行って幸福になるって言ったけど、それが本当の勉強の意味だと思います。

T14 : 頑張れ、歩かなかつたら峠は越えれん。Fさんに続いてください。いっぱい語ってくれた思いにつながってください。

14 絶対行きたいという気持ちのある徳島商業に進んでほしい

C41 : さっきの休み時間にTさんが「もう〇〇高校にしたけん」とか言よったんやけど、そんときは「ほな、いつしょに行こう」とか言つたけど、やっぱり徳島商業に行きたいんだつたら、絶対その信念を貫いてほしいです。私もいろいろ悩んで進路を決めたけど、みんながどの高校に行くかということはあまり考えない方で、自分自身が進む高校についてもそんなに深刻に考えることはなくて、Tさんみたいに真剣に考えたことがなかったので、自分の進路について真剣に考え悩んでいるTさんを見てすごいなあって思つたし、絶対行けると思うのでTさんがやっぱり本当に幸福になりたいんだつたら、〇〇高校だったら悔いが残つてあかんと思うし、私は〇〇高校に進むけど、(全体:笑い) やっぱり精一杯頑張って絶対行きたいという気持ちのある徳島商業に進んでほしいです。

C42 : Fさんが言ったように、Tさんが「私、〇〇高校に決めたけん」とか言つたとき、ずっといつしょに徳島商業へ行こうと言つてきたのすごくつらかったです。でも、今はやっぱり徳島商業の受験に向いて頑張っていくって聞いてすごくうれしかつたし、私も徳島商業に進学したいと思っているんだけど、私は単純だから悪い点とつたりしても、あんまり気にしないところもあるけど、すごく不安になることもあります。でも本当に私は徳島商業に行きたいし、徳島商業へ行って今まで頑張ってきたことを徳島商業で出会つた人にぶつけていきたいし、徳島商業に行った先輩に続いていきたいし、昨日も言つたけど、A先輩のように頑張りたいし、先輩は今年板野中学校を卒業していく私たちに何かを求めているような感じの話もしてくれるし、本当にあと少ししか時間はないけど、全力で頑張って絶対合格したいし、徳島商業に入ってからも、今まで1、2年生のとき、私自身に嘘ばっかり言って頑張つていなかつた分、これからずっと頑張つていけると思うし、本当に強い自分にしていくためにも、今を全力で頑張つて高校入試という峠を越えたいと思います。

C43 : 昨日の映画を観て頑張っている人、頑張っている姿を観て自分の姿を振り返つてみたら、自分はちつとも頑張つてなくて、しなければならないこともまだできつてなくて、そんなことを思いながら、昨日の映画を思い出していました。私も高校進学のこといろいろ悩んでいるけど、4月から大切にしてきた「昨日の自分より今日の自分が好き」という言葉を大切に頑張つていきたいと思います。

C44 : あんまりよく分からないところもあるけど、夜間中学校と昼間の学校を比較する心がどこかにあって、僕の心の中には夜間中学校で学んでいる人たちに対しての差別意識があるように思います。人間として大切なことはいかに一生懸命に生きているかだということをあの映画の中で思つたし、一生懸命に生きている人の生き方を尊敬するのが本当の人間としての生き方だと思います。

T15 : 知らず知らずのうちに、みんなが空気を吸うようにそういう差別意識が入つてくる。あの子は〇〇高校へ行つてゐる。あの人は〇〇高校へ行つてゐる。あの人はあかんっていうような差別意識。〇〇高校へ行つてゐる。あの人はごつつい良いというような意識、そうゆう価値観を変えていく。本当の幸福つて何か。学ぶつてどういうことかをきつと捉えていく。そういう人生を歩んで欲しいと思うんです。

C45 : 幸福というのは、自分の目的があつて自分の好きなことをやって暮らすことだと思う。人に足をひっぱられたり、とやかく言われたりして、自分の行動を見失つたりせんと、自分の好きなことや自分の本当にや

りたいことをやっていくことが本当の幸福だと思う。

C46：映画の中で「人間らしく生きること、幸福を見つけるために勉強する」と言っていたのを見て、私はなんだかほっとしました。この映画を見てなんか心が広くなったような気がします。高校に進学しても、自分というものをしっかりと持って、今まで以上に頑張らないかんと思います。

C47：あの映画には、監督の訴えたいものがすごく自然に表わされていたと思います。あのクラスの全員が一つの家族のように思えてきました。喧嘩もあったけど、温かいものを感じました。先生がさっき話してくれたように私の中にも夜間中学という意識の中に差別的なものがありました。学歴社会の中で学ぶことの本質を私たちは見失っているんだと思います。あの映画は私たちに人間として生きていくことの意味を訴えていると思いました。

15 ドミノ倒しみたいに倒れてくる仲間にに対して、負けるなよって言いたい

C48：どうしても受験のことには話がいってしまうんだけど、私の周りにも高校を変える（進路変更する）人がいて、なんか自分より点数のいい人が進学する高校を変えるというのを聞いて、情けないこと言うなという気持ちにもなるんだけど、自分も一生懸命に頑張ろうとしているのに、ドミノ倒しみたいに倒れてくる仲間にに対して、負けるなよって言いたいんだけど、やっぱりいつしょに倒れてしまいそうになるけど、今一度どうしてその学校に行きたいのかを自分自身で確かめて、毎日の勉強を全力で頑張れるようにしたいです。

T16：生きるっていうこと、学ぶっていうこと。みんなはどんな思いを仲間の発言から感じ取りますか。

C49：私は高校に進むというのは、自分自身がその高校でどのように頑張ろうとしているかが一番大切だと思います。だから、その人自身が行きたいって思った方向に頑張って勉強して、テストを受けてそれで合格してこそ、高校でも頑張ることができるんだと思います。その思いがなければ学校というのは、絶対楽しいところにはならないと思います。

C50：僕の親は僕に対していい大学に行って、いいところに就職してと言います。親は親なりに僕のことを考えてくれてるので、僕もそうなるように頑張っていこうと思っています。でもみんなの意見を聞く中で思ったことだけど、自分に何かやりたいかというのがなかったら、自分を無理な環境に追い込んでも何も残らないと思います。やっぱり人は自分のなりたいものとか、やりたいものとか、納得して動かなかったら、本当の幸福はつかむことはできないんだと思います。

T17：もう時間がきてしまったんだけど、今日のみんなの発言を聞いていろいろなことを思いました。それは人間は人間の本質にふれることによって揺さぶられ変わっていくということです。みんなの中に育った思いというのは、これから的人生をみんなが生きていく指針になっていくと思います。授業とは仲間の本当の思いにふれ、自分自身の生き方を求めていくものだと思います。今日語ってくれた人の思いを受けて、みんな自身の生き方をより確かなものにしてほしいと思います。最後に今日の授業の最初に燃えるような思いを語ってくれたS君。S君を変えたものは何だろうか。最後に思うことを語ってほしい。

16 僕が変わったのは、先週の月曜日に学習会に行ってから

C51：僕が変わったのは、先週の月曜日に学習会に行ってからだと思います。たぶん、僕一人だったら参加できなかっただと思います。でもあのときはY君とかM君とかがいっしょだったので、僕は中学校にきて初めて学習会に参加することができたんです。そしたら今まであった重たいものが、なくなって本当に心が軽くなつたというか、僕は頑張れるというような思いになってきました。僕はあの日、学習会の仲間から大きな自信をもらいました。だから今あの学習会場にいっしょに行ってくれたY君とM君にものすごく感謝しています。

T18：終わります。